

令和 7 年度石川県登録販売者試験

【前半の部 問 1 ～問 6 0】

受験番号	氏 名

◎指示があるまで開いてはいけません。

注 意 事 項

- 試験問題は 6 0 問で、1 2 時 3 0 分から 1 4 時 3 0 分までの 1 2 0 分で解答してください。
- 解答方法は以下のとおりとする。

- (1) 各問題には、正しい答えは一つしかないので、最も適当と思った答えを一つ選び、次の例にならって解答用紙に記入してください。二つ以上選んだ場合は、無効になります。4 択式と 5 択式の問題がありますが、解答用紙は印刷の都合上、すべて 5 択式になっています。

(例) 問 3 0 0 次の都市のうち、石川県の県庁所在地はどれか。

1 岐阜市 2 名古屋市 3 金沢市 4 津市 5 富山市

正しい答えは「3」であるから解答用紙の③を塗りつぶして

問 3 0 0 ① ② ● ④ ⑤ とすればよい。

- (2) 正答は○の中全体を H B 又は B の鉛筆で濃く塗りつぶしてください。

悪い解答の例



しっかり塗りつぶさないと採点されません。

- (3) 答えを修正した場合は必ず「消しゴム」であとが残らないように完全に消してください。鉛筆のあとが残ったり「X」のような消し方などをした場合は、修正又は解答したことにならないので注意してください。
- (4) 解答用紙は折り曲げたり、よごしたりしないよう、特に注意してください。

- 問題中の医薬品等に関する記述は、特に記載がない限り、特異的なものを考慮せずに解答してください。
- 問題の内容については、質問しないこと。
- 問題中の「医薬品医療機器等法」、「医薬品医療機器等法施行令」及び「医薬品医療機器等法施行規則」はそれぞれ次の法令を指す。

問題中の記載	法令の名称
医薬品医療機器等法	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律 (昭和 35 年 8 月 10 日法律第 145 号)
医薬品医療機器等法施行令	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行令 (昭和 36 年 1 月 26 日政令第 11 号)
医薬品医療機器等法施行規則	医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律施行規則 (昭和 36 年 2 月 1 日厚生省令第 1 号)

- 問題文中で法律等の文章を引用及び抜粋する場合、促音に該当する「っ」については、小文字で記載する。

【例】「あつては、」→「あつては、」

医薬品に共通する特性と基本的な知識

問1

医薬品に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 人体に対して使用されない殺虫剤であっても、誤って人体がそれに曝^{さら}されれば健康を害するおそれがあるものがある。
- b 一般用医薬品は、一般の生活者が自ら選択し、使用するものであるが、一般の生活者においては、添付文書や製品表示に記載された内容を見ただけでは、効能効果や副作用等について誤解や認識不足を生じることもある。
- c 医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる仕組みになっており、それらの結果を踏まえ、リスク区分の見直しが行われることがある。
- d 医薬品医療機器等法では、健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず、異物等の混入、変質等がある医薬品を販売等してはならない旨を定めている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問2

医薬品のリスク評価に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 少量の医薬品の投与であれば、発がん作用や臓器の機能不全を生じることはない。
- b 製造販売後安全管理の基準として、Good Post-marketing Study Practice (G P S P) が制定されている。
- c ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準には、国際的に Good Clinical Practice (G C P) が制定されている。
- d 動物実験により求められる50%致死量 (LD₅₀) は、薬物の毒性の指標として用いられる。

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問3

いわゆる「健康食品」と呼ばれる健康増進や維持の助けになることが期待される食品に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 「特定保健用食品」は、身体の生理機能などに影響を与える保健機能成分を含むもので、個別に（一部は規格基準に従って）特定の保健機能を示す有効性や安全性などに関する国の審査を受け、許可されたものである。
- b 「栄養機能食品」は、事業者の責任で科学的根拠をもとに疾病に罹患していない者の健康維持及び増進に役立つ機能を商品のパッケージに表示するものとして都道府県に届出された商品である。
- c 「機能性表示食品」は、身体の健全な成長や発達、健康維持に必要な栄養成分（ビタミン、ミネラルなど）の補給を目的としたもので、国が定めた規格基準に適合したものであれば、その栄養成分の健康機能を表示できる。
- d 健康食品は、医薬品との相互作用で薬物治療の妨げになることがある。

1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問4

アレルギー（過敏反応）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アレルギーには、体質的・遺伝的な要素があり、近い親族にアレルギー体質の人がいる場合には、注意が必要である。
- b 薬理作用がない添加物は、アレルギーを引き起こす原因物質（アレルゲン）となり得ない。
- c 普段は医薬品にアレルギーを起こしたことがない人でも、病気等に対する抵抗力が低下している状態などの場合には、医薬品による思わぬアレルギーを生じることがある。
- d 医薬品の中には、鶏卵や牛乳等を原材料として作られているものがあるため、それらに対するアレルギーがある人ではその医薬品の使用を避けなければならない場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問5

セルフメディケーションに関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 セルフメディケーションの推進は、医療費の増加やその国民負担の増大を解決し、健康寿命を伸ばすための、重要な活動のひとつである。
- 2 一般用医薬品の販売等を行う登録販売者は、地域医療を支える医療スタッフあるいは行政などとも連携をとって、地域住民の健康維持・増進、生活の質（QOL）の改善・向上などに携わることが望まれる。
- 3 平成29年1月から、条件を満たした場合にスイッチOTC医薬品の購入の対価について、一定の金額をその年分の総所得金額等から控除するセルフメディケーション税制が導入された。
- 4 令和4年1月にセルフメディケーション税制が見直され、現在では、スイッチOTC医薬品だけでなく、すべての一般用医薬品が税制の対象となっている。

問6

医薬品の副作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 副作用には、眠気や口渇等の比較的良好に見られる症状は含まれない。
- b 医薬品が人体に及ぼす作用は、すべてが解明されているわけではないため、十分注意して適正に使用された場合であっても、副作用が生じることがある。
- c 複数の疾病を有する人の場合、ある疾病のために使用された医薬品の作用によって、別の疾病の治療が妨げられることがある。
- d 一般用医薬品は、一般の生活者が自らの判断で使用するものであり、通常は、その使用を中断することによる不利益よりも、重大な副作用を回避することが優先される。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問7

医薬品の不適正な使用と副作用に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 医薬品は、その目的とする効果に対して副作用が生じる危険性が最小限となるよう、使用する量や使い方が定められている。
- 2 一般用医薬品にも習慣性・依存性がある成分を含んでいるものがあるが、一般用医薬品による薬物依存は一度形成されても、容易に離脱することができる。
- 3 人体に直接使用されない医薬品についても、使用する人の誤解や認識不足によって使い方や判断を誤り、副作用につながることもある。
- 4 誤解や認識不足による不適正な使用や、それに起因する副作用の発生の防止を図るには、医薬品の販売等に従事する専門家が、購入者等に対して、正しい情報を適切に伝えていくことが重要となる。

問8

医薬品と他の医薬品との相互作用に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 複数の医薬品を併用した場合、医薬品の作用が増強することはあるが、減弱することはない。
- 2 相互作用を回避するには、ある医薬品を使用している期間やその前後を通じて、その医薬品との相互作用を生じるおそれのある医薬品の摂取を控えなければならないのが通常である。
- 3 複数の疾病を有する人では、疾病ごとにそれぞれ医薬品が使用される場合が多く、医薬品同士の相互作用に関して特に注意が必要となる。
- 4 相互作用には、医薬品が吸収、分布、代謝又は排泄^{せつ}される過程で起こるものと、医薬品が薬理作用をもたらす部位において起こるものがある。

問9

医薬品と食品との相互作用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 食品と医薬品の相互作用は、しばしば「飲み合わせ」と表現され、食品と飲み薬が体内で相互作用を生じる場合が主に想定される。
- b 酒類（アルコール）は、医薬品の吸収や代謝に影響を与えることがある。
- c 生薬成分等については、医薬品的な効能効果が標榜又は暗示されていなければ、食品（ハーブ等）として流通可能なものもあり、そうした食品を合わせて摂取すると、生薬成分が配合された医薬品の効き目や副作用を増強させることがある。
- d 外用薬や注射薬であれば、食品によって医薬品の作用や代謝に影響を受ける可能性はない。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問10

高齢者の医薬品の使用に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 一般用医薬品の販売等に際しては、実際にその医薬品を使用する高齢者の個々の状況に即して、適切に情報提供や相談対応がなされることが重要である。
- 2 高齢者は、生理機能の衰えのほか、喉の筋肉が衰えて飲食物を飲み込む力が弱まっている（嚥下障害）場合があり、内服薬を使用する際に喉に詰まらせやすい。
- 3 「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」（平成29年6月8日付け薬生安発0608第1号厚生労働省医薬・生活衛生局安全対策課長通知別添）は、おおよその目安として70歳以上を「高齢者」としている。
- 4 高齢者によくみられる傾向として、細かい文字が見えづらく、添付文書や製品表示の記載を読み取るのが難しい場合等があり、情報提供や相談対応において特段の配慮が必要となる。

問11

小児等の医薬品の使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 小児は、肝臓や腎臓の機能が未発達であるため、医薬品の成分の代謝・排泄^{せつ}に時間がかかり、作用が強く出過ぎたり、副作用がより強く出ることがある。
- b 小児は、大人と比べて身体の大きさに対して腸が長く、服用した医薬品の吸収率が相対的に低い。
- c 「医療用医薬品の添付文書等の記載要領の留意事項」（平成29年6月8日付け薬生安発0608第1号厚生労働省医薬・生活衛生局安全対策課長通知別添）において示される年齢区分のうち、「小児」という場合には、おおよその目安として、7歳以上、15歳未満の者を指す。
- d 乳幼児に医薬品を使用した後は、保護者等が乳幼児の状態をよく観察することが重要である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問12

プラセボ効果（偽薬効果）に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 プラセボ効果は、主観的な変化だけでなく、客観的に測定可能な変化として現れることもある。
- 2 医薬品を使用したときにもたらされる反応や変化には、薬理作用によるもののほか、プラセボ効果によるものも含まれている。
- 3 プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの（効果）はあるが、不都合なもの（副作用）はない。
- 4 プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待（暗示効果）や条件付けによる生体反応等が関与して生じると考えられている。

問 13

妊婦又は妊娠していると思われる女性及び母乳を与える女性（授乳婦）の医薬品の使用等に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 妊娠の有無やその可能性については、購入者等にとって他人に知られたくない場合もあることから、一般用医薬品の販売等において専門家が情報提供や相談対応を行う際には、十分に配慮することが必要である。
- b 母体が医薬品を使用した場合に、血液-胎盤関門によって、どの程度医薬品の成分の胎児への移行が防御されるかは、未解明のことも多い。
- c 便秘薬のように、配合成分やその用量によっては流産や早産を誘発するおそれがあるものがある。
- d 授乳期間中は、すべての医薬品の使用を控える必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 14

1～5の事項のうち、一般用医薬品の役割として誤っているものはどれか。

- 1 生活習慣病の治療
- 2 健康の維持・増進
- 3 軽度な疾病に伴う症状の改善
- 4 健康状態の自己検査
- 5 生活の質（QOL）の改善・向上

問 15

適切な医薬品選択と受診勧奨に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 一般用医薬品を一定期間若しくは一定回数使用しても症状の改善がみられない又は悪化したときには、医療機関を受診して医師の診療を受ける必要がある。
- b 購入者等が医薬品を使用する状況は随時変化する可能性があるため、販売数量は一時期に使用する必要量とする等、販売時のコミュニケーションの機会が継続的に確保されるよう配慮することが重要である。
- c 一般用医薬品には、スポーツ競技者が使用したとしてもドーピングに該当する成分は含まれていない。
- d 一般用医薬品は、すぐに使用する必要に迫られて購入されるとは限らず、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、その販売等に従事する専門家においては、購入者側の状況の把握に努めることが望ましい。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 16

医薬品の品質に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 医薬品は、適切な保管・陳列がなされなければ、効き目が低下したり、人体に好ましくない作用をもたらす物質を生じることがある。
- b 一般用医薬品は、家庭における常備薬として購入されることも多いことから、使用期限から十分な余裕をもって販売等がなされることも重要である。
- c 品質が承認等された基準に適合しない医薬品の販売は禁止されている。
- d 医薬品に表示されている「使用期限」は、開封後の品質も考慮した期限である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問17

サリドマイドに関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a サリドマイド訴訟は、サリドマイド製剤を妊娠している女性が使用したことにより、出生児に四肢欠損、耳の障害等の先天異常（サリドマイド胎芽症）が発生したことに対する損害賠償訴訟である。
- b 妊娠している女性が摂取した場合、サリドマイドは血液-胎盤関門を通過して胎児に移行する。
- c 催眠鎮静成分として承認されたが、副作用として血管新生を促進する作用もあった。
- d サリドマイドの催奇形性の原因となる作用は、その光学異性体のうち、一方の異性体のみが有する作用であることから、もう一方の異性体を分離して製剤化した場合には、催奇形性を避けることができる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問18

クロイツフェルト・ヤコブ病（C J D）及びC J D訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a C J Dは、ウイルスが原因とされている。
- b C J Dは、次第に認知症に類似した症状が現れ、死に至る重篤な神経難病である。
- c C J D訴訟は、脳外科手術等に用いられていたウシ乾燥硬膜を介してC J Dに罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- d 生物由来の医薬品等によるC J D等の感染被害を受けて、独立行政法人医薬品医療機器総合機構による生物由来製品による感染等被害救済制度の創設等がなされた。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 19

ヒト免疫不全ウイルス（H I V）訴訟及びC型肝炎訴訟に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 H I V訴訟は、血友病患者が、H I Vが混入した原料血漿^{しょう}から製造された血液凝固因子製剤の投与を受けたことにより、H I Vに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- 2 H I V訴訟等を踏まえ、緊急に必要とされる医薬品を迅速に供給するための「緊急輸入」制度が創設された。
- 3 C型肝炎訴訟は、大量出血などの際に特定のグロブリン製剤や血液凝固第Ⅸ因子製剤の投与を受けたことにより、C型肝炎ウイルスに感染したことに対する損害賠償訴訟である。
- 4 「薬害再発防止のための医薬品行政等の見直しについて（最終提言）」（平成22年4月28日薬害肝炎事件の検証及び再発防止のための医薬品行政のあり方検討委員会）を受け、医師、薬剤師、法律家、薬害被害者などの委員により構成される医薬品等行政評価・監視委員会が設置された。

問 20

亜急性脊髄視神経症（スモン）及びスモン訴訟に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a スモン訴訟は、整腸剤として販売されていたキノホルム製剤を使用したことにより、スモン^りに罹患したことに対する損害賠償訴訟である。
- b スモンはその症状として、初期には腹部の膨満感から激しい腹痛を伴う下痢を生じ、次第に下半身の痺れ^{しび}や脱力、歩行困難等が現れる。
- c キノホルム製剤は、現在、日本ではアメーバ赤痢への使用に限り販売されている。
- d スモン訴訟、サリドマイド訴訟を契機として、医薬品副作用被害救済制度が創設された。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

主な医薬品とその作用

問21

かぜの症状緩和に用いられる漢方処方製剤のうち、マオウを含むものとして、正しいものの組み合わせはどれか。

- a かつこんとう 葛根湯
- b しょうせいりゅうとう 小青竜湯
- c はんげこうぼくとう 半夏厚朴湯
- d けいしとう 桂枝湯

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

問22

かぜ薬に配合される成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 解熱鎮痛成分であるアセトアミノフェンは、主として中枢作用によって解熱・鎮痛をもたらすため、末梢における抗炎症作用は期待できない。
- b がい 鎮咳成分であるコデインリン酸塩水和物は、依存性がある成分である。
- c トラネキサム酸は、体内での起炎物質の産生を抑制することで鼻粘膜や喉の炎症の発生を抑え、腫れを和らげるが、凝固した血液を溶解されやすくする働きもある。
- d グリチルリチン酸二カリウムの作用本体であるグリチルリチン酸は、化学構造がステロイド性抗炎症成分に類似していることから、抗炎症作用を示すと考えられている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問23

カフェインに関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

カフェインは、脳に軽い興奮状態を引き起こし、一時的に眠気や倦怠感を抑える効果がある。
また、腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収（ a ）作用があり、尿量の（ b ）をもたらす。

安全使用の観点から留意すべき作用に、胃液分泌（ c ）作用があり、その結果、副作用として胃腸障害が現れることがある。

	a	b	c
1	抑制	増加	亢進
2	抑制	減少	抑制
3	抑制	増加	抑制
4	亢進	増加	亢進
5	亢進	減少	抑制

問24

第1欄の記述は、咳止めや痰を出しやすくする目的で用いられる漢方処方製剤に関するものである。該当する漢方処方製剤として正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

体力中等度をめやすとして、気分がふさいで、咽喉・食道部に異物感があり、ときに動悸、めまい、嘔気などを伴う不安神経症、神経性胃炎、つわり、咳、しわがれ声、のどのつかえ感到に適すとされる。

また、構成生薬にカンゾウを含まない。

第2欄

- 半夏厚朴湯
- 柴朴湯
- 驅風解毒散
- 五虎湯
- 神秘湯

問 25

腸の薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a トリメブチンマレイン酸塩は、細菌感染による下痢の症状を鎮めることを目的として用いられるが、通常の腸管内に生息する腸内細菌に対しても抗菌作用を示すため、症状が治まったのに漫然と服用すると、腸内環境を悪化させることがある。
- b ロペラミド塩酸塩は、食べすぎ・飲みすぎによる下痢、寝冷えによる下痢、食あたりや水あたりによる下痢の症状に用いることを目的として配合される。
- c ビスマスを含む成分は、アルコールと一緒に摂取されると、循環血液中への移行が高まって精神神経症状を生じるおそれがあるため、服用時は飲酒を避ける必要がある。
- d ^{もく}木クレオソートは、過剰な腸管の^{ぜん}蠕動運動を正常化し、あわせて水分や電解質の分泌を抑える止瀉作用がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 26

^{しゃ}瀉下薬の配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ビサコジルは、大腸のうち特に結腸や直腸の粘膜を刺激して、排便を促すと考えられており、また、結腸での水分の吸収を抑えて、^{ふん}糞便のかさを増大させる働きもあるとされる。
- 2 ジオクチルソジウムスルホサキシネート（D S S）は、小腸でリパーゼの働きによって生じる分解物が、小腸を刺激することで^{しゃ}瀉下作用をもたらすと考えられている。
- 3 センナ中に存在するセンノシドは、胃や小腸で消化されないが、大腸に生息する腸内細菌によって分解され、分解生成物が^{しゃ}大腸を刺激して瀉下作用をもたらすと考えられている。
- 4 カルメロースナトリウム（別名カルボキシメチルセルロースナトリウム）は、腸管内で水分を吸収して腸内容物に浸透し、^{ふん}糞便のかさを増やすとともに^{ふん}糞便を柔らかくすることによる^{しゃ}瀉下作用を示す。

問27

第1欄の記述は、胃の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関するものである。
該当する漢方処方製剤として正しいものは第2欄のどれか。

第1欄

体力中等度以下で、胃腸が弱く、食欲がなく、みぞおちがつかえ、疲れやすく、貧血性で手足が冷えやすいものの胃炎、胃腸虚弱、胃下垂、消化不良、食欲不振、胃痛、嘔吐に適すとされる。

第2欄

- 1 薏苡仁湯 よく い にんとう
- 2 抑肝散 よく かん さん
- 3 加味帰脾湯 か み き ひ とう
- 4 桔梗湯 き きょう とう
- 5 六君子湯 りつくん し とう

問28

貧血用薬（鉄製剤）及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 鉄分は、赤血球が酸素を運搬する上で重要なヘモグロビンの産生に不可欠なミネラルであるため、鉄製剤は悪性貧血を含む様々な分類の貧血を改善できる。
- b 服用の前後30分にタンニン酸を含む飲食物（緑茶、紅茶、コーヒー、ワイン、柿等）を摂取すると、タンニン酸と反応して鉄の吸収が悪くなることがあるので、鉄製剤服用前後はタンニン酸を含む飲食物の摂取を控えることとされている。
- c 鉄分の吸収は空腹時のほうが高いとされているが、消化器系への副作用を軽減するには、鉄製剤は食後に服用することが望ましい。
- d 銅はヘモグロビンの産生過程で、鉄の代謝や輸送に重要な役割を持つ。補充した鉄分を利用してヘモグロビンが産生されるのを助ける目的で、硫酸銅が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 29

呼吸器官に作用する薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 メチルエフェドリン塩酸塩は、交感神経系への抑制作用によって、心臓血管系や、肝臓でのエネルギー代謝等にも影響が生じることが考えられる。
- 2 グアイフェネシンは、気道粘膜からの粘液の分泌を促進する作用を示し、痰^{たん}の切れを良くする。
- 3 ノスカピンは、モルヒネと同じ基本構造を持ち、麻薬性鎮咳^{がい}成分とも呼ばれる。長期連用や大量摂取によって倦怠感や虚脱感、多幸感等が現れることがあり、薬物依存につながるおそれがある。
- 4 キョウニン^{けん}は、バラ科のヤマザクラ又はカスミザクラの樹皮を基原とする生薬で、去痰^{たん}作用を期待して用いられる。

問 30

胃腸鎮痛鎮痙^{けい}薬の配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 パパベリン塩酸塩は、抗コリン成分であり、胃液分泌を抑える作用がある。
- 2 チキジウム臭化物は、副交感神経系の働きを抑える作用が消化管に限定されないため、散瞳による目のかすみや異常な眩^{まぶ}しさ等の副作用が現れることがあり、乗物又は機械類の運転操作を避ける必要がある。
- 3 アミノ安息香酸エチルは、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、6歳未満への使用は避ける必要がある。
- 4 オキセサゼインは、痛みが感じにくくなることで重大な消化器疾患や状態の悪化等を見過ごすおそれがあり、長期間にわたって漫然と使用することは避けることとされている。

問31

「かぜ」（感冒）及びかぜ薬（総合感冒薬）に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 かぜの症状は、くしゃみ、鼻汁・鼻閉（鼻づまり）、咽喉痛、咳、痰等の呼吸器症状と、発熱、頭痛、関節痛、全身倦怠感等、様々な全身症状が組み合わさって現れる。
- 2 インフルエンザ（流行性感冒）は、かぜと同様、ウイルスの呼吸器感染によるものであるが、感染力が強く、また、重症化しやすいため、かぜとは区別して扱われる。
- 3 かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑えたり、ウイルスを体内から除去するものである。
- 4 発熱、咳、鼻水など症状がはっきりしている場合には、症状を効果的に緩和させるため、解熱鎮痛薬、鎮咳去痰薬、鼻炎を緩和させる薬などを選択することが望ましい。存在しない症状に対する不要な成分が配合されていると、無意味に副作用のリスクを高めることとなる。

問32

次の医薬品成分のうち、胃酸の中和作用に加え、胃粘膜にゼラチン状の皮膜を形成して保護する作用もあるとされているものはどれか。

- 1 ケイ酸マグネシウム
- 2 酸化マグネシウム
- 3 炭酸マグネシウム
- 4 メタケイ酸アルミン酸マグネシウム
- 5 炭酸水素ナトリウム

問33

鎮暈薬（乗物酔い防止薬）及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 乗物酔い防止薬には、吐きけを抑えることを目的とした成分も配合されるが、つわりに伴う吐きけへの対処として使用することは適当でない。
- b ジフェニドール塩酸塩は、前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
- c メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが早く持続時間が短い。
- d ジプロフィリンは、乗物酔い防止に用いられている抗コリン成分である。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問34

眠気を促す薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ブロモバレリル尿素は、反復して摂取すると依存を生じることが知られており、ブロモバレリル尿素が配合された医薬品は、本来の目的から逸脱した使用（乱用）がなされることがあることに留意が必要である。
- b 体力中等度以上で、精神不安があつて、動悸^き、不眠、便秘などを伴う高血圧の随伴症状（動悸^き、不安、不眠）、神経症、更年期神経症、小児夜なき、便秘に適する漢方処方製剤として麻黄湯^{まおうとう}がある。
- c 妊娠中にホルモンのバランスや体型の変化等が原因で生じる睡眠障害は、抗ヒスタミン成分を含有する睡眠改善薬の適用対象である。
- d 小児及び若年者では、抗ヒスタミン成分により眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮などが現れることがある。特に小児ではそうした副作用が起きやすいため、抗ヒスタミン成分を含有する睡眠改善薬の使用は避ける。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問 35

サリチル酸系解熱鎮痛成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a アスピリン（別名アセチルサリチル酸）、サザピリン、サリチル酸ナトリウム、エテンザミド、サリチルアミド等を総称してサリチル酸系解熱鎮痛成分という。
- b アスピリンは、他の解熱鎮痛成分と比較して胃腸障害を起こしやすく、アスピリンアルミニウム等として胃粘膜への悪影響の軽減を図っている製品もある。
- c エテンザミド及びサリチルアミドは、小児に対しては、いかなる場合も一般用医薬品として使用してはならない。
- d アスピリンには血液を凝固しにくくさせる作用もあるため、胎児や出産時の母体への影響を考慮して、出産予定日 1 2 週間以内の使用を避ける。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	誤	正

問 36

浣腸薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 注入剤の半量等を使用する用法がある場合、残量を冷蔵庫で保管すれば、再利用することができる。
- 2 繰り返し使用すると直腸の感受性の低下（いわゆる慣れ）が生じて効果が弱くなり、医薬品の使用に頼りがちになるため、連用しないこととされている。
- 3 坐剤が柔らかい場合には、しばらく冷やした後に使用する。また、無理に挿入すると直腸粘膜を傷つけるおそれがあるため、硬すぎる場合には柔らかくなった後に使用する。
- 4 坐剤を挿入した後すぐに排便を試みると、坐剤が排出されて効果が十分得られないことから、便意が強まるまでしばらく我慢する。

問 37

口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 含嗽薬は、口腔及び咽喉の殺菌・消毒・洗浄、口臭の除去等を目的として、用時水に希釈又は溶解してうがいに用いる、又は患部に塗布した後、水でうがいする外用液剤である。
- b トローチ剤やドロップ剤は、有効成分が速やかに咽頭部に行き渡るよう、よく噛み砕いて飲み込んで使用する。
- c 含嗽薬は、水で用時希釈又は溶解して使用するものが多いが、調製した濃度が濃すぎても薄すぎても効果が十分得られない。
- d 口腔咽喉薬及び含嗽薬は、口腔内や咽頭における局所的な作用を目的とする医薬品であるため、全身的な影響を生じることはない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問 38

駆虫薬及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 駆虫薬は、腸管内の寄生虫を駆除するために用いられる。一般用医薬品の駆虫薬が対象とする寄生虫は、回虫と蟯虫である。
- 2 駆除した虫体や腸管内に残留する駆虫成分の排出を促すため、駆虫薬は瀉下薬であるヒマシ油と併用することが望ましい。
- 3 サントニンは、回虫の自発運動を抑える作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- 4 ピペラジンリン酸塩は、アセチルコリン伝達を妨げて、回虫及び蟯虫の運動筋を麻痺させる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。

問 39

胃の薬の配合成分とその配合目的との関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

(配合成分)		(配合目的)	
a	ジメチルポリシロキサン	—	胃粘膜の炎症を和らげる
b	スクラルファート	—	胃粘膜を保護して、その修復を促す
c	ピレンゼピン塩酸塩	—	過剰な胃液の分泌を抑える
d	テプレノン	—	胃の内容物の消化を助ける

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問 40

高コレステロール改善薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a リノール酸は、コレステロールと結合して、代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。
- b ビタミンB 2 (リボフラビン酪酸エステル等)の摂取によって尿が黄色くなることがあり、これは使用の中止を要する副作用である。
- c パンテチンは、高密度リポタンパク質 (HDL) の異化排泄^{せつ}を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、低密度リポタンパク質 (LDL) 産生を高める作用があるとされる。
- d ビタミンE (トコフェロール酢酸エステル) は、コレステロールからの過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされ、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害 (手足の冷え、痺れ^{しび}) の緩和等を目的として用いられる。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問41

痔疾用薬として用いられる生薬成分及び漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a シコンは、ムラサキ科のムラサキの根を基原とする生薬で、新陳代謝促進、殺菌、抗炎症等の作用を期待して用いられる。
- b セイヨウトチノミは、トチノキ科のセイヨウトチノキ（マロニエ）の種子を基原とする生薬で、内用痔疾用薬として使用する場合、主に抗炎症作用を期待して用いられる。
- c 乙字湯は、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱く下痢しやすい人では、悪心・嘔吐、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。
- d 芎帰膠艾湯は、構成生薬としてカンゾウを含むため、カンゾウを含む他の医薬品や一般食品等との併用により、摂取されるグリチルリチン酸の総量が継続して多くならないように注意を促すことが重要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問42

泌尿器用薬として用いられる生薬成分及び漢方処方製剤に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 ウワウルシ（ツツジ科のクマコケモモの葉を基原とする生薬）は、利尿作用のほかに、経口的に摂取した後、尿中に排出される分解代謝物が抗菌作用を示すため、尿路の殺菌消毒効果を期待して用いられる。
- 2 牛車腎気丸は、のぼせが強く赤ら顔で体力の充実しているものの排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみ、前立腺肥大に適すとされる。
- 3 キササゲは、ノウゼンカズラ科のキササゲ等の果実を基原とする生薬であり、利尿作用を期待して配合されている。
- 4 竜胆瀉肝湯は、体力中等度以上で、下腹部に熱感や痛みがあるものの排尿痛、残尿感、尿の濁り、こしけ（おりもの）、頻尿に適すとされる。

問43

第1欄の記述は、婦人薬として用いられる漢方処方製剤に関するものである。()の中に入れるべき字句は第2欄のどれか。

第1欄

女性の月経や更年期障害に伴う諸症状の緩和に用いられる主な漢方処方製剤のうち、()は構成生薬としてカンゾウを含む。

第2欄

- | | |
|---|---|
| 1 | 温経湯、 <small>うんけいとう</small> 四物湯 <small>し もつとう</small> |
| 2 | 温経湯、 <small>うんけいとう</small> 桃核承気湯 <small>とうかくじょう き とう</small> |
| 3 | 四物湯、 <small>し もつとう</small> 桃核承気湯 <small>とうかくじょう き とう</small> |
| 4 | 温清飲、 <small>うんせいいん</small> 五積散 <small>ご しゃくさん</small> |
| 5 | 五積散、 <small>ご しゃくさん</small> 当帰芍薬散 <small>とう き しゃくやくさん</small> |

問44

内服アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ヒスタミンの働きを抑える作用を示す成分（抗ヒスタミン成分）に、鼻粘膜の充血や腫れを和らげる成分（アドレナリン作動成分）、鼻汁分泌やくしゃみを抑える成分（抗コリン成分）等を組み合わせて配合されたものを鼻炎用内服薬という。
- b 副交感神経系の働きを促進することによって、鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的としてベラドンナ総アルカロイドが配合されている場合がある。
- c 一般用医薬品（漢方処方製剤を含む。）には、アトピー性皮膚炎による慢性湿疹等の治療に用いることを目的とするものはないことから、アトピー性皮膚炎が疑われる場合やその診断が確定している場合は、医師の受診を勧めることが重要である。
- d 服用することにより、薬疹の副作用が生じることはない。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

問 45

鼻に用いる薬の配合成分とその配合目的との関係のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

(配合成分)		(配合目的)	
a	ナファゾリン塩酸塩	—	局所麻酔成分であり、鼻粘膜の過敏性や痛みや痒み ^{かゆみ} を抑える。
b	クロモグリク酸ナトリウム	—	抗アレルギー成分であり、鼻アレルギー症状を緩和する。
c	セチルピリジニウム塩化物	—	殺菌消毒成分であり、鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止する。
d	ケトチフェンフマル酸塩	—	アドレナリン作動成分であり、鼻粘膜の充血や腫れを和らげる。

1 (a、c) 2 (b、c) 3 (b、d) 4 (a、d)

問 46

眼科用薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a スルファメトキサゾールは、細菌感染による結膜炎やものもらい、眼瞼炎などの化膿性^{のう}の症状の改善を目的として用いられるが、ウイルスや真菌に対する効果はない。
- b ホウ酸は、洗眼薬として用時水に溶解し、結膜囊^{のう}の洗浄・消毒に用いられる。
- c リン酸水素ナトリウムは、新陳代謝を促し、目の疲れを改善する効果を目的として配合される。
- d プラノプロフェンは、ステロイド性抗炎症成分であり、炎症の原因となる物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問47

眼科用薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a テトラヒドロゾリン塩酸塩は、目の乾燥を防ぐことを目的として用いられる。
- b ネオスチグミンメチル硫酸塩は、コリンエステラーゼの働きを抑える作用を示し、毛様体におけるアセチルコリンの働きを助けることで、目の調節機能を改善する効果を目的として用いられる。
- c ピリドキシン塩酸塩は、アミノ酸の代謝や神経伝達物質の合成に関与していることから、目の疲れ等の症状を改善する効果を目的として用いられる。
- d ベンザルコニウム塩化物を含む製品は、ソフトコンタクトレンズに吸着され、角膜に障害を引き起こす原因となるおそれがあるため、ソフトコンタクトレンズを装着したままの点眼は避けるべきである。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問48

漢方独自の病態認識である「証」と一般用医薬品であることを考慮した記載である「しぼり」(使用制限) との関係の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

	(証)		(しぼりでの記載)
a	虚実の概念で「中間」の病態	—	体力中等度で
b	陰陽の概念で「陰」の病態	—	疲れやすく冷えやすいもの
c	五臓の概念で「肝陽上亢 ^{こう} 」の病態	—	のぼせがみで顔色が赤く
d	気血水の概念で「血虚」の病態	—	皮膚の色つやが悪く

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問 49

きず口等の殺菌消毒薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a ヨードチンキは、アルカリ性になると殺菌力が低下するため、石けん等と併用する場合には、石けん分をよく洗い落としてから使用するべきである。
- b 火傷（熱傷）や化膿した創傷面の消毒、口腔内の殺菌・消毒などを併せて目的とする殺菌消毒薬については、医薬部外品としても製造販売されている。
- c オキシドール（過酸化水素水）は、一般細菌類の一部（連鎖球菌、黄色ブドウ球菌などの化膿菌）に対する殺菌消毒作用を示すが、作用の持続性は乏しく、また、組織への浸透性も低い。
- d 創傷面が汚れているときには、創傷面の水洗は行わず、創傷表面を乾燥させるタイプの医薬品を使用するべきである。

- 1 (a、c) 2 (b、c) 3 (b、d) 4 (a、d)

問 50

外皮用薬及びその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a インドメタシンは、非ステロイド性抗炎症成分であり、好ましくない作用として末梢組織の免疫機能を低下させる作用も示す。
- b ケトプロフェンが配合された外皮用薬を使用している間及び使用後も当分の間は、天候にかかわらず、戸外活動を避ける等、紫外線に当たるのを避ける必要がある。
- c 紫雲膏は、急性化膿性皮膚疾患（腫れ物）の初期、打ち身、捻挫、湿潤、ただれ、火傷又は外傷のひどい場合に適すとされるが、傷口が化膿している場合、患部が広範囲の場合には不向きとされる。
- d サリチル酸は、角質成分を溶解することにより角質軟化作用を示す。併せて抗菌、抗真菌、抗炎症作用も期待され、にきび用薬等に配合されている場合もある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	誤	正	正

問51

歯や口中に用いる薬に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 歯痛薬は、歯の齲蝕（むし歯）による歯痛を応急的に鎮めることを目的とする一般用医薬品であり、歯の齲蝕が修復されることはない。
- 2 歯槽膿漏薬は、患部局所に適用する外用薬のほか、内服で用いるものもある。内服薬は、抗炎症成分、ビタミン成分等が配合されたもので、外用薬と併せて用いると効果的である。
- 3 歯槽膿漏薬には、歯周組織の血行を促す効果を期待して、カルバゾクロムが配合されている場合がある。
- 4 茵陳蒿湯は、体力中等度以上で口渇があり、尿量少なく、便秘するものの口内炎に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい。

問52

ニコチン置換療法に使用される禁煙補助剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ナファゾリン塩酸塩との併用により、ナファゾリン塩酸塩の作用を減弱させるおそれがある。
- b インスリン製剤を使用している人では、禁煙補助剤を使用することにより、ニコチンがインスリンの血糖降下作用に拮抗して、効果を妨げるおそれがある。
- c 重い狭心症や不整脈と診断された人では、循環器系に重大な悪影響を及ぼすおそれがあるため、使用を避ける必要がある。
- d コーヒーや炭酸飲料は口腔内を酸性にするため、これらの食品の摂取直後に咀嚼剤の禁煙補助剤を使用するとニコチンの吸収が低下する。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問 53

滋養強壮保健薬に配合される生薬成分に関する記述について、（ ）の中に入れるべき字句の正しい組み合わせはどれか。

ニンジン（人参）は、ウコギ科のオタネニンジン（*Adonis vernalis*）の（ a ）又はこれを軽く湯通ししたものを基原とする生薬である。別名を高麗人参、朝鮮人参ともいう。神経系の（ b ）や（ c ）等の作用により、外界からのストレス刺激に対する抵抗力や新陳代謝を高めるとされる。

	a	b	c
1	葉	興奮	副腎皮質の機能亢進
2	葉	抑制	副腎皮質の機能抑制
3	細根を除いた根	抑制	抗ヒスタミン作用
4	細根を除いた根	興奮	副腎皮質の機能抑制
5	細根を除いた根	興奮	副腎皮質の機能亢進

問 54

滋養強壮保健薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものはどれか。

- 1 医薬部外品の保健薬の効能・効果の範囲は、滋養強壮、虚弱体質の改善、病後の栄養補給に限られており、病中の栄養補給に用いるものは医薬品においてのみ認められている。
- 2 ビタミンは、「微量（それ自体エネルギー源や生体構成成分とならない）で体内の代謝に重要な働きを担うにもかかわらず、生体が自ら産生することができない、又は産生されても不十分であるため外部から摂取する必要がある化合物」と定義される。
- 3 ヘスペリジン（ルチン）は、骨や歯の形成に必要な栄養素であり、筋肉の収縮、血液凝固、神経機能にも関与する。
- 4 システイン（システイン）は、ビタミン様物質のひとつで、ビタミンCの吸収を助ける等の作用があるとされ、滋養強壮保健薬のほか、かぜ薬等にも配合されている場合がある。

問55

肥満症又は^{はん}肥胖症に用いられる漢方処方製剤に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a ^{ぼうふうつうしょうさん} 防風通聖散は、体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節の腫れや痛み、むくみ、多汗症、肥満症（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）に適すとされる。
- b ^{ぼう い おう ぎ とう} 防己黃耆湯は、体力充実して、腹部に皮下脂肪が多く、便秘がちなものの高血圧や肥満に伴う^き動悸・肩こり・のぼせ・むくみ・便秘、蓄膿症（^{のう}副鼻腔炎）、^{しん}湿疹・皮膚炎、ふきでもの（にきび）、肥満症に適すとされる。
- c ^{だいさい こ とう} 大柴胡湯は、体力が充実して、脇腹からみぞおちあたりにかけて苦しく、便秘の傾向があるものの胃炎、常習便秘、高血圧や肥満に伴う肩こり・頭痛・便秘、神経症、肥満症に適すとされる。
- d ^{ぼうふうつうしょうさん} 防風通聖散及び^{だいさい こ とう}大柴胡湯は、構成生薬としてダイオウを含むため、母乳を与える女性では使用を避けるか、又は使用期間中の授乳を避けることとされている。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	誤	誤

問56

尿糖・尿タンパク検査薬の検査結果に影響を与える要因に関する記述のうち、正しいものの組み合わせはどれか。

- a 通常、尿は弱アルカリ性であるが、食事その他の影響で中性～弱酸性に傾くと、正確な検査結果が得られなくなることがある。
- b 尿糖又は尿タンパクを検出する部分を長い間尿に浸していると、検出成分が溶け出してしまい、正確な検査結果が得られなくなることがある。
- c 出始めの尿では、尿道や外陰部等に付着した細菌や分泌物が混入することがあるため、中間尿を採取して検査することが望ましい。
- d 尿タンパク検査の場合は、原則として食後1～2時間の尿を検体とする。

- 1 (a、b) 2 (b、c) 3 (c、d) 4 (a、d)

問57

婦人薬及びその適用対象となる体質・症状に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 婦人薬は、月経及び月経周期に伴って起こる症状を中心として、女性に現れる特有な諸症状（血行不順、自律神経系の働きの乱れ、生理機能障害等の全身的な不快症状）の緩和と、保健を主たる目的とする医薬品である。
- 2 更年期（閉経周辺期）において、月経周期が不規則になるほか、不定愁訴として血の道症（臓器・組織の形態的異常がなく、精神神経症状が現れる病態）の症状に加え、冷え性、ほてり、のぼせ等の症状が起こることがあり、こうした症候群を更年期障害という。
- 3 人工的に合成された女性ホルモン^{ちつ}の一種であるエチニルエストラジオールは、エストラジオールを補充するもので、膣粘膜又は外陰部に適用されるものがあるが、これらの成分は適用部位で作用するため、循環血液中へは移行しない。
- 4 月経不順については、卵巣機能の不全による場合もあるが、過度のストレスや、不適切なダイエット等による栄養摂取の偏りによって起こることもあり、月経前症候群を悪化させる要因ともなる。

問58

第1欄の記述は、消毒薬及びその配合成分に関するものである。（ ）の中に入れるべき字句は第2欄のどれか。

第1欄

（ ）は、皮膚刺激性が強いため、通常、人体の消毒には用いられず、専ら器具、設備等の殺菌・消毒に用いられる。また、強い酸化力により一般細菌類、真菌類、ウイルス全般に対する殺菌消毒作用を示す。

第2欄

- 1 イソプロパノール
- 2 クレゾール石ケン液
- 3 ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル
- 4 クロルヘキシジングルコン酸塩
- 5 次亜塩素酸ナトリウム

問59

衛生害虫とその防除に関する記述の正誤について、正しい組み合わせはどれか。

- a 蚊の幼虫（ボウフラ）の防除を目的として水系に殺虫剤を投入する際には、生態系に与える影響を考慮して適切な使用を行う必要がある。
- b ゴキブリの防除を目的として燻蒸^{くん}処理を行う場合、ゴキブリの卵は医薬品の成分が浸透しない殻^{くわ}で覆われているため、3週間位後に、もう一度燻蒸^{くん}処理を行い、孵化^{ふん}した幼虫を駆除する必要がある。
- c トコジラミは、シラミの一種であり、その防除には、殺虫成分としてフェノトリンが配合されたシャンプーやてんか粉を用いた医薬品による方法が用いられる。
- d ヒョウヒダニ類やケナガコナダニは、ヒトを刺すことはないが、ダニの糞^{ふん}や死骸^{しがい}がアレルギー^{ぜん}ゲンとなって気管支喘息^{ぜん}やアトピー性皮膚炎などを引き起こすことがある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	正	正	正	正

問60

登録販売者が行う医薬品の販売時における受診勧奨に関する記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 かぜ症候群等に伴う鼻炎症状の場合、鼻炎が続くことで副鼻腔炎^{くう}や中耳炎などにつながることもあるため、そのような症状の徴候に対しても注意を促すとともに、中耳炎が発生した場合などは医療機関を受診するよう勧めるべきである。
- 2 きず口等の殺菌消毒薬の販売時において、低温火傷は、表面上は軽症に見えても、組織の損傷が深部に達している場合があるため、医療機関を受診するよう勧めるべきである。
- 3 爪白癬^{せん}は、清浄に保てば自然治癒することが多いが、頭部白癬^{せん}は、患部に薬剤が浸透しにくく、難治性であるため、医療機関を受診するよう勧めるべきである。
- 4 滋養強壮保健薬は、ある程度継続して使用されることによって効果が得られる性質の医薬品であるが、1ヶ月位服用しても症状の改善がみられない場合には、栄養素の不足以外の要因が考えられるため、症状によっては医療機関を受診するよう勧めるべきである。

